

めでいか、すたる

Médicastre



「みずばしょう」

おまたせしました



介護老人保健施設 みずばしょう
施設長 遠藤栄一

お待たせしました。「みずばしょう」は漸く、ゴールデンウイーク明けの5月9日に開所式を迎えることができました。

今まで、何度か説明会や内覧会を行ってまいりましたが、ご参加いただけなかった会員の方のために、簡単に施設の概要を説明いたします。

「みずばしょう」の住所は羽黒町大字後田字谷地田191-4です。「やまぶし温泉 ゆぽか」の隣といえば解りやすいでしょうか？鉄筋2階建て、敷地面積は14977.71㎡、のべ床面積は5930.78㎡とかなりの広さです。

「ゆぽか」から温泉のお湯を分湯してもらい、お風呂や足湯のほか、暖房、冬季間の融雪に利用いたします。パネルヒーターと床暖房が入っていて、室温調整は輻射と空気の対流で行います。パネルは内部を通すお湯を水に代え、冷房にも用いることができます。また、施設全体に外断熱方式、ペアガラスを採用して、冷暖房の効率を高めています。

居室は100室ありますが、利用者のプライバシーに配慮して全室個室、一般室が50部屋、差額室が48部屋、特別室が2部屋あります。これを8のユニットに分け、ユニットケア方式を採用しております。

独コンパス社製のマシン6台を購入し、パワーリハビリも導入します。パワーリハビリの効果についてはご存知のことと思いますが、せっかくの設備ですので、ゆくゆくは空いている時間に一般に開放し、地域の介護予防や体力増進

に役立てていただければと考えています。

環境問題にも配慮して、補助金を受け、屋根の上に40kwの太陽電池パネルを設置することも計画中です。鶴岡市周辺の日照条件では、年間約45万円位の電気量の節約が見込めるようです。また、風力と太陽電池で発電するハイブリッド発電機を2機備え、用水の水をポンプアップし、ビオトープに引きます。

施設の基本方針としましては、栄養管理とリハビリに重点を置き、ADLの改善を目指し、在宅管理に移行することを目標としていきます。現実問題として、自宅での介護力不足や、家族の介護に対する理解や努力の不足など、困難な問題は多くありますが、かかりつけ医の先生方、訪問看・護訪問リハとの連携を図り、家族に働きかけ、少しでも目標に近づけるよう努力していこうと考えています。

なにしろ始まったばかりの施設です。「みずばしょう」をより良いものにしていくために、今後とも会員諸先生方のご指導をお願い致します。



上空より ~撮影 本田 学 先生~



ケアマネージャー対象見学会の様子（4月9日）



施設見学会の様子①（4月24日）



施設見学会の様子②（4月24日）



施設見学会の様子（4月27日）



外構工事検査の様子（5月6日）



開所式（5月9日）



開所式会長挨拶（5月9日）



開所式羽黒町長祝辞



開所式テープカットの様子（5月9日）



リハビリテーション庭



ビオトープ

『膵嚢胞性腫瘍の診断と治療』

山形大学医学部

器官機能統御学消化器・一般外科学(第一外科)

教授 木村 理 先生

膵嚢胞は嚢胞内腔を被覆する上皮を有するものは真性嚢胞、有しないものは仮性嚢胞と分類される。腫瘍性嚢胞は真性嚢胞の範疇に入り、漿液性嚢胞腺腫・癌(Serous cystic tumor, SCT)、粘液性嚢胞腺腫・癌(Mucinous cystic tumor, MCT)が代表的なものである。膵管内乳頭粘液性腫瘍(Intraductal papillary mucinous tumor of the pancreas, IPMT)の分枝型を腫瘍性嚢胞の概念に組み入れて論じるかどうかは微妙なところである。Solid pseudopapillary tumor や、膵内分泌腫瘍における中心部の壊死によるものは二次性嚢胞とされる。

最近ではIPMTをどのようにこの分類に組み込むのかが問題である。つまり、IPMTという大きな概念でまとめられる主膵管型と分枝型が膵嚢胞性疾患という概念から見たときに、その概念に入らないものと入るものとして、引き裂かれる可能性がある。MCTとIPMT分枝型は粘液産生という視点からは両者は共通しており、鑑別の難しい場合もある。しかし、MCTとIPMTとは臨床病理学的に明らかに異なった疾患である。すなわち嚢胞性膵腫瘍について解析するためには、IPMTの分枝型とMCTの線引きをどこにするか、およびこれらを「膵嚢胞の分類」そして「膵外分泌腫瘍の分類」のなかでどのように位置づけるかという問題を明確に示さなくてはならない。

MCTに関して重要なのは、この腫瘍性嚢胞がまれではあるが存在することを認識すること、その

臨床病理学的特徴を知り、他の膵嚢胞性疾患との鑑別診断をきちんとつけ、MCTの診断がついたら手術を施行し、けっして経過観察をして手遅れになようなことはさけることである。

IPMTの適正な手術についてはいまだ悩みのつきないものがある。この疾患をみたときに外科医としてどのような手術をするべきか、つねにストレスがつきまとう。さまざまな術式が脳裏を横切り、いったいどの術式を選択するのが目の前の患者さんにとって最良か、判断に迷うことも多いのではないだろうか。従来の手術を行うべきか、縮小手術を選択すべきか、術中迅速組織診で切離断端に腫瘍細胞や乳頭状の隆起性病変が認められた場合に付加手術を行うべきか否か、どのような付加手術を行うべきか、などさまざまなオプションが浮かんでくる。術後の最終病理診断の結果が術前予想された診断あるいは術中の迅速病理診断と異なる場合も少なくない。主膵管断端は迅速組織診どおり腫瘍細胞陰性であっても分枝膵管に高度異型の腫瘍がみられたり、IPMTに通常型膵癌が合併していたりと、愕然とさせられる病理報告をみることもある。

IPMTに対する膵の機能温存縮小手術の今後の発展にとって重要なことはこれらの問題点を明らかにしていくこと、解剖学的基礎研究を積み重ね技術的な問題点を解決すること、この手術の成功例が機能温存によっていかなる恩恵を受けたかを客観的に示していくことなどである。

鶴岡地区医師会第81回定時総会

(平成17年3月24日(木) PM 6:30)

○本田議長 それでは、鶴岡地区医師会第81回定時総会を開催いたします。資格確認をお願いします。

○佐藤局長 資格確認についてご報告いたします。会員総数191名、内6時30分現在で出席されている方は25名、委任状を提出されている方は126名、合計151名。よって総会の成立に必要な過半数の出席を満たしておりますので、本総会は成立いたしました。以上です。

○本田議長 ありがとうございます。それでは続きまして会長挨拶をお願いします。

○ 斎藤会長 お晩でございます。本日は、年度末でご多忙の中、ご参集いただきまして本当にありがとうございます。本日は平成16年度の補正予算案、並びに平成17年度の事業計画案、更には会費賦課案、予算案をご審議いただき、ご承認をお願いしたいと思っております。医師会内に医師会の活性化を検討する委員会を設けまして現在検討中でございますが、この総会の出席者が少しでも増加します事を祈念したいと思っております。今回の補正予算案に関しましては、検診事業で初めてマイナスの実績になる見込みであるというのが大きな事かなと思っております。17年度の事業計画案の中で、新規のものとしてはご存知の通り4月1日より個人情報保護法が施行されます。それに伴いまして、この法律への対応を医師会としてやろうという事が大きな新しい事項であろうかと思っております。現在の医師会の諸事業に関しまして簡単に申し上げたいと思っております。先程も申しました通り検診事業に関しましては曲がり角に来ていると思っております。ドックその他検診のスペースの狭隘化、これは前から申し上げております。最近の諸事情の所以もあろうかと思っておりますが、何しろ行政側にお金がないという事情もあり、加えて、検診事業は補助金ではなくて一般財源化されています。その為に、以前ほど熱心ではない

といえますか、多少財政的な部分で少し腰が引けているのかなという感じもいたします。その対策としましては、検診をしてよかったという形にしていけないといけない、その為に何をするかというと、やはり検診精度を上げるという事に尽きると思っております。幸い、当センターの検体検査の精度は99.・・・%と非常に立派な数字を出して頂きました。そういう事も含めて、この地域全体の検



診をいかにレベルアップするかという事を考えますと、いわゆる個別検診を医師会がバックアップして精度管理を行うという点と、未だ精度管理をまったく行っていない医療機関に対する勧奨を行う必要があるのではないかと市の方へは話をしています。更には精度の向上と同時に検診後の事後指導をきっちりと積極的に行わなければならないと思っております。もうひとつは、検診事業に無駄な出費をしないような動きを強めて行きたいと思っております。以前、富塚鶴岡市長が合併後の大きな事業の一つとして、総合保健福祉センターの建設を公約に掲げられています。合併は現実のものとなってまいりました。この総合保健福祉センターの建設に当たっては我々もその構想作りから参画して、少しでもいいものを作っていただくという事を進めてまいりたいと思っております。次に准看護学院に関してであります。この准看護師養成に関しましては酒田地区医師会の看護学校が平成20年度をもって准看の廃止を決めております。従って、進学課程も廃止となり正規の3年制の看護学校だけにするという事です。それが我々の准看護学院にどのような影響を及ぼすか、検討して対策を作っていないといけないと思っておりますが、看護職におけるこの地域の需要を把握しますと、この准看護学院をただちに廃止するというわけにはいかないと思っております。どのような形にしろ、現在の庄内看護専門学校と鶴岡准看護学院の定員の総数45名ですが、この数の看護職の養成は守っていかなければいけないと思っております。どのような形になるかはもう少し時間を頂きたいと思っております。その決意だけは我々執行部持っております。在宅サービ

センターに関しては現在訪問リハビリを単独で立ち上げていますが、中々収入が伸びないという事があり、これを訪問看護と一緒にしまして訪問看護からの派遣という形にしますと一件あたりの収入が6～7割違います。従って、来年度からは訪問看護と訪問リハビリを合体しまして、ハローナースのもとに訪問リハビリを実施して行く予定としています。湯田川温泉リハビリテーション病院に関しては順調に推移しております。次は今年度、医師会が総力をあげて建設をしまいいりました介護老人保健施設みずばしよに関してであります。昨日建物の引渡しをいただきました。建設費用につきましても十分予算内にとどまっております。金額の割には中々いいものが出来たかなと思っております。ただ、外溝工事が4月いっぱいのご予定でございますので、全体の感じを見るのはもう少し時間をいただきたいと思っております。今後は住民へのPR、会員への案内、お願いを積極的に行い、みずばしよの運営を軌道に乗せて行きたいと思っております。最後にITに関してです。Net4Uをご利用いただいておりますし、医師会、湯田川温泉リハビリテーション病院のホームページ等ございます。まずNet4Uに関しましては、やはり段々古くなってきて次のバージョンに向けて検討してまいりたいと思っております。いろいろ申し上げましたが何とかやってこれましたのも、会員の先生方の御支援と、役職員の努力のおかげだろうと感謝しております。よろしくご審議いただきまして、ご承認いただければと思っております。本日はどうもありがとうございました。

○本田議長 ありがとうございます。続きまして、議事録署名委員選出を行います。どなたか希望される方はいらっしゃいませんか。いないようですので議長から指名させていただきます。中村純先生、長島義弘先生よろしく申し上げます。それでは議事に入ります。平成16年度予算案承認の件について、審議していただきます。都合により、2番の鶴岡准看護学院事業会計補正予算(案)からお願いします。

○中村理事 原案により説明する(略)

○本田議長 ありがとうございます。何かご質問等はありませんでしょうか。続きまして、健康管理センター事業会計補正予算(案)についてお願いします。

○上野理事 原案により説明する(略)

○本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんでしょうか。それでは1番に戻りまして、一般会計補正予算(案)についてお願いします。

○中里理事 原案により説明する(略)

○本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんでしょうか。それでは、指定訪問看護ステーション事業会計補正予算書(案)、指定訪問入浴介護事業会計補正予算書(案)及びに指定訪問リハビリテーション事業会計補正予算書(案)を続けてお願いします。

○土田理事 原案により説明する(略)

○本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんでしょうか。それでは続きまして湯田川温泉リハビリテーション病院・医師会事業会計補正予算書(案)についてお願いします。

○竹田理事 原案により説明する(略)

○本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんでしょうか。では続きまして老健施設建設準備特別会計収支補正予算書(案)についてお願いします。

○中目副会長 原案により説明する(略)

○本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。ないようでしたら、採決に入りたいと思っております。平成16年度補正予算(案)承認の件について賛成の方は挙手願います。

— 挙手多数 —

承認されました。続きまして平成17年度鶴岡地区医師会事業計画(案)の承認の件についてお願いします。

○中目副会長 それでは平成17年度鶴岡地区医師会事業計画(案)について説明いたします。1. 医学医術の向上に関する事業、2. 地域保健医療計画への協力は変更ありませんが、2. の(12)仮称市保健センターの建設構想計画への参画・協力が新しく設けた項目であります。これは市が行う保健センターの建設の中に当地区医師会の検診部門を参入できないかという事に関する検討事項であります。6. 介護老人保健施設の整備充実については(2)施設における看護・介護・通所リハビリテーション事業の充実強化(3)病診連携及び地域関係団体との連携強化、が新しい項目になっています。9. 会員組織の強化推進の(3)医師会組織の見直し及び活性化の推進ということで活性化のための委員会を設けまして今後検討して行きたいということです。(4)会費賦課検討も変更であります。13. に4月から施行されます、個人情報保護法に関して(3)個人情報保護法に基いた情報の安全管理体制の確立を言うことで一項目設けさせていただきました。以上です。

- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はございませんでしょうか。それでは採決に入ります。賛成の方は挙手願います。賛成多数によりこの案は承認されました。続きまして平成17年度鶴岡地区医師会会費賦課(案)についてお願いします。
- 中里理事 それでは平成17年度鶴岡地区医師会会費賦課(案)について説明いたします。変更点はB会員で、医師会館建設負担金の非拠出会費が4,000円でしたが入会金も値上がりしている事もありますので3,000円に統一させて頂いてはいかがかという事です。その他は昨年度同様です。
- 本田議長 採決に入ります。賛成の方は挙手願います。賛成多数で平成17年度鶴岡地区医師会会員賦課(案)は承認されました。続きまして、平成17年度予算(案)承認の件について、一般会計収支予算(案)についてお願いします。
- 中里理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。それでは鶴岡准看護学院事業会計収支予算書(案)をお願いします。
- 中村理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。続きまして、健康管理センター事業会計収支予算書(案)をお願いします。
- 上野理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。指定訪問看護ステーション、指定訪問入浴介護事業会計収支予算書(案)をお願いします。
- 土田理事 初めに指定訪問看護ステーション事業会計収支予算書(案)について説明いたします。その前に先程、齋藤会長のご挨拶にもありました通り、訪問看護ステーションは来年度から訪問リハビリ部門も統合した形の組織となります。従いまして収入の部も支出の部も、予算額には全て入っていますが前年度予算額は訪問看護部門単独の予算となっています。ですので増減が大きい所がありますが、大きな意味を持ちません。少しでも参考になればと思います。訪問看護と訪問リハビリを合算したものを参考資料としてご用意いたしましたのでご覧いただきながら説明をお聞きください。
- 以下、原案により説明する(略)
- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。それでは続きまして管理会計収支予算書(案)をお願いします。
- 中里理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。それでは続きまして湯田川温泉リハビリテーション病院・医師会事業会計収支予算書(案)をお願いします。
- 竹田理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 ありがとうございます。何かご質問はありませんか。続きまして介護老人保健施設みずばしよ事業会計収支予算書(案)をお願いします。
- 中目理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 以上何かご質問はございませんでしょうか。収支予算書案総括表へのご質問はありませんでしょうか。
- それでは平成17年度予算案承認の件について賛成の方は挙手願います。賛成多数により平成17年度予算案は承認されました。続きまして固定資産廃棄処分の承認の件についてお願いします。
- 中里理事 原案により説明する(略)
- 本田議長 それでは固定資産廃棄処分の承認の件について賛成の方は挙手願います。賛成多数で固定資産廃棄処分の承認の件は承認されました。以上で終了ですがその他何かございませんでしょうか。
- ないようですので鶴岡地区医師会第81回定時総会を終了いたします。ありがとうございます。
- (午後7時45分閉会)



右脳と左脳、そして脳を鍛える

五十嵐耳鼻咽喉科

五十嵐 博 之

これからは「右脳を鍛え、使わないと生き残れない」と言われている。

「カン」や創造力の源泉は右脳であるという。私たちの記憶の大部分はある情景がぼんやりとしたままビデオテープのような形で主として右脳に納められているといわれる。情報が一種の絵画イメージとして映画のフィルムのような形で右脳に納められている。私たちが物を考えるというのは右脳が描いてみせる画像を左脳が観察しながら記号化し言語化する作業なのである。左脳は右脳のイメージ思考を言葉などに置き換えていく道具的性格が強いわけだ。ビジネスの場で強く要求される創造力を考えてみると、頭の中で対応関係がないと思われる情報同士を結びつける力が創造力であり、それらの距離が離れていればいるほど斬新な発想と呼ばれる。人間は情報を作り出せないわけだから創造力といっても結局は過去に蓄えられた情報を作り変える作業なのである。この場合にも右脳に情報のビデオテープが十分に蓄えられていなければ創造力など生まれようがない。私たちはすぐに「カン」、「ヒラメキ」の大切さをいうが、これとて右脳の持つ直観力、総合力、イメージ的機能がまず働き、左脳と協調してこそ生まれてくる。つまり私たちが型にはまらない新しい発想をしたり環境に応じて頭の切り替えをしていくには右脳を十分に使わなければやっていけないのである。

○左脳の得意分野：話す、書く、論理的思考、計算

○右脳の得意分野：直観力、総合力、イメージ、視覚情報の全体的な把握、空間内の操作機能（図1）

日本人の多くは余りにも右脳を使わなさ過ぎる。「日本人の脳」を書いた角田忠信教授は日本人は演歌とか三味線、琴といった日本の音楽をはじめ、犬や虫のなき声などを全部左脳で聞く。これに対してポリネシア人を除く全ての外国人は音楽や犬や虫の声を全て右脳で聞くと説いている。日本人にはそういう脳の使い方の特徴があるという。日本人が左脳で音楽を聴くというのは右脳で非常に多くの絵画的情報を処理し、手一杯だったからだと考えている。（品川嘉也）

日本の風景は四季の変化に富んでいる。風土が非常に絵画的である。絵画的なことは右脳で処理される。こうした風土の中で右脳は大変忙しく働かざるを得なかったのではないだろうか。そこから音楽を左脳で聴く脳の使い方の伝統が出来た。

品川氏は日本人はもともと右脳的であり日本文化さらには東洋文化そのものが右脳的だと思われると言う。日本の風景は四季の変化に富んでいて、風土が非常に絵画的であることは先に述べた。絵画的なことは右脳で処理される。そこから音楽を左脳で聴く脳の使い方の伝統ができたという。欧米人が日本の経済発展に驚き、日本的な東洋的な思考法を学ぼうとしているが彼らはいわば日本的な右脳思考を学ぼうとしているとっていいだろう。

「左の脳」には言葉を理解する言語中枢があり「右の脳」にはそれに対応して音楽を受け取る音楽の中枢のような場所がある。言語中枢のある左脳が意識と連絡していて、人間の意識は左側の脳を痛めつけるととたんに混濁してしまう。左右脳の分業を詳しく示すと以下のごとくなる（図1）。

「左脳」：言語的、論理的、分析的、代数的な思考。認識や行動の主役となる。

「右脳」：直感的、総合的、幾何的、絵画的な思考。音楽脳、経験

強い頭を作るにはどうするか。

座禅、瞑想や肉体鍛錬によって高度な叡智が作られるのは何百年もの伝統と経験によって見つけ出されたものであろうが、現代の科学に照らしてみるとどういうことになるだろうか。結論的に言えば「頭脳は鍛錬によって健全となり、それはまた健全な肉体に宿る」という諺にも言われている。

鍛錬について分子レベルから考えてみると、図2の如く脳の活動をアクセスする脳内覚醒物質と脳の活動をプレーキする脳内麻薬様物質はいずれも小型タンパク質で通常のタンパク質の合成法にのっとり核酸の遺伝情報によって合成されるセントラルドグマであり、合成されたタンパク質は酵素によって分解されそれぞれの小型タンパク質となる（この過程は特にプロセッシングといわれる）。このようにして肉体的ストレスを除く脳内覚醒物質、ACTHと鎮静、快感、抗不快を生じ精神的ストレスを

とる脳内麻薬様物質、ACTH、 β -エンドルフィンが同時にしかも等量できることがわかった(図2)。このようなタンパク質の合成系を介して、ストレスに対して感情を強く抑える我慢強さができ、精神力の一つである忍耐力が無意識のうちに物質的に作られると考えられている(図2)。修行僧の精神的鍛錬は座禅のみではなく厳冬の寒さ、粗末な食事、厳しい規律、長期の沈黙、短時間睡眠と過酷なストレスに耐えなくてはならない。そしてそのようなストレスやつらい作務に耐えて鍛えられた精神は墳末事をきれいに払拭し、自由ではつらつとした健康な頭脳になる。心身のストレスを克服することで何故精神が健康になるのか。たとえば乾布摩擦で風邪を引かなくなるというのと同じ仕組みが頭脳に対しても働いている。逆説的にストレスは頭脳の健康にとっても良いのである。

瞑想のとき脳にどんな変化が起こるだろうか。脳の活動状態を客観的に見るためには脳波が最も良い。肉体的精神的に安静なくつろいだ状態の時には α 波が出る。しかし書物を読んだり考え事をするとか感情が高ぶったときなど緊張した精神状態では β 波という速い波になる。座禅に入ると目を開いたままなのに α 波がきれいに連続して現れてくる。この α 波も普通は後頭部によく見られるのであるが、座禅のときは頭頂部や前頭部に最も多く見られる。

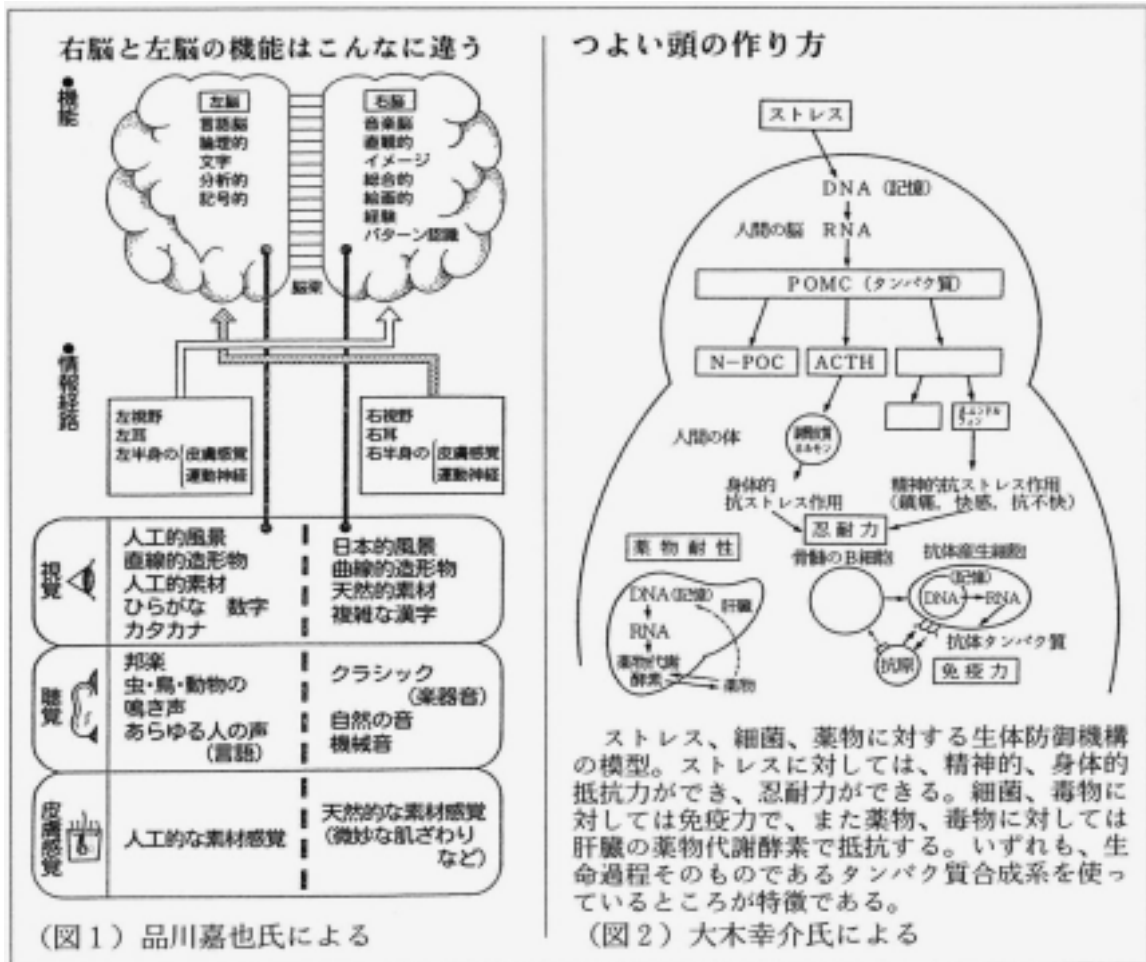
この領域から α 波が出るという事は外のものを見ているようでそれに捉われていない状態であるといえる。

脳波が α 波状態になって β -エンドルフィンが分泌されると自分の内部に眠っていた才能が動き出すという。右脳にストックされた記憶や情報は自在に引っ張り出せるので、普段 β 波のときには考えられないような才能が発揮できる。この事が α 彼の最大の利点である。

どんなときでもプラス発想できる法はあるか。脳内モルヒネを分泌するための最高の条件はプラス発想をすることである。しかし実際にプラス発想を常に持つことは簡単ではない。何故なら人生は成功より失敗、楽しいことよりつらいことのほうが多いからである。楽しいことがあったときにプラス発想することは簡単です。しかし失敗したときやつらい環境でいかにしてプラス発想するかはきわめて難しく困難な問題であると思う。それには前述のような肉体的鍛錬などにより免疫と同じように忍耐力が作られるのではないかと思うのである。

参考文献

- 1) 脳の発見 ; 角田忠信1985年
- 2) 日本人の脳 ; 角田忠信1978年
- 3) 脳内革命 ; 春山茂雄1996年
- 4) 脳内麻薬と頭の健康; 大木幸介1995年



マイペット&マイホビー

—第21回—

田園交響曲

横山 靖

ペットを飼いたいな、と思うけど娘はネコとイヌに対してアレルギーがある。それでいつぞや家人に、じゃあ毛のない亀を飼ったらどうか？と提案したが家人にはあっさり却下された。というわけで、現在はペットもないのでホビーについて書こうと思う。

『今でも私は《無伴奏チェロ組曲》の表紙を見るたびに、バルセロナの港にあった、ほんのりカビ臭く、潮の香りのするあの古い店を思い出す。

店を出ると、私はその楽譜をしっかりと抱きかかえて、家に急いだ。楽譜には美しい音符が記されている。私にとって、それは王冠を飾るいくつもの宝石のように思えた。』(P・カザルス、『A. E. カーンに語った私の生涯』、ストック社、1970)

チェロの神様、カザルスがバッハの《無伴奏チェロ組曲》の出会いを語った言葉である。私がチェロを弾くようになったのも、この《無伴奏チェロ組曲》を聴いたことがきっかけだ。初めて聴いた演奏はもちろんカザルス、EMIから出ていたGR盤のLPである。一聴して驚いた、いや驚いたなんて謂うものではない。当時高校生だった私はベートーヴェンをはじめ、ショスタコーヴィッチあたりまで一通りの交響曲は聞いていた。しかし、このたった一丁のチェロの奏でる音楽のどこ

までも広がる世界、底が見えないほどの深い世界はフル・オーケストラのスケールをはるかに超えていた。カザルスが《無伴奏チェロ組曲》の第1番ト長調のプレリュードの冒頭のG線の開放弦を、思いを込めるように、心持ち長く、ゆったりと弾き始めると音楽の中には宇宙への扉が開かれた。あるのは宇宙の秩序と鳴動、そこに展開される調和のとれた音楽はまさに天体の運行であり、物理の法則に従い進む星々の生涯のドラマなのである。どの音、どの音符にも偶然はなく、そこにその音があるべき必然性がある。まさに始まりの音から最後の音まですべてが幾重もの因果関係で結ばれている整然とした世界、これをチェロ一本で再現するのである。さっそく楽譜を手に入れ、ドキドキしながら最初のページを開く。そこに描かれている音符たちの美しさ！！カザルスの云う王冠を飾るいくつもの宝石とうのもわかる気がするが、私には何よりページに記されている音符たちの配列の織り成す幾何学模様そのものが完成された芸術品のように感じられた。いうならばこの楽譜は、夜空に広がる星々や銀河の美しい眺めである。しかしその宇宙に一步踏み入れれば、星々は燃え盛り、銀河では新しい星が生まれる一方で、古い星は終焉を迎え、驚くようなダイナミックな新しい時空が広がっている。音にして再現すると、まさにそん

な果てしない空間が感じられるのである。宇宙飛行士の毛利さんがN響アワーにゲスト出演した時、思いもかけずこんな事を言っていた。『シャトルに乗って宇宙空間に飛び出した時、頭の中では無伴奏チェロ組曲の第1番のプレリュードが鳴り響いていた』この言葉を聞き、わが意を得たとばかりにうれしくなった。話しはそれだが、というわけでチェロを弾くことにした。まったく、若気のいたりの無謀な挑戦である。しかし、そのおかげで少しチェロを弾けるようになり、アマチュア・オーケストラにも入った。現在は山形フィルハーモニーに所属している。オーケストラに入っている特典は、なんとといってもベートーヴェンの交響曲が弾けることである。幸いにも私は、1番、3番『英雄』、5番『運命』、7、8、9番『合唱』を弾く機会に恵まれた。そして、今春の山フィルのコンサートは6番『田園』である。バッハを練習して、ベートーヴェンを弾けるようになったのをケガの功名とは云わないかもしれないが、仕事を終え、夜『田園』を練習している時間は本当に幸せである。第4楽章の『雷雨と嵐』を練習しては、「こんなの弾けるわけないじゃん!!」とブツブツつぶやきながらも、大好きな第5楽章の『嵐の後の喜びと感謝』など弾いていると思わず、目がウルウルとしてくる。こう涙もろくなるのは年のためだろうか？家人などは『そんなことで感動するなんて、あなたは幸せな人ね』と、私が至極単純な人間であるというような物言いである。そういえば、初めて第九を弾いた時など感動してしまい、終楽章の最後のページなど、涙で楽譜が霞んで弾けなかった。山フィルの指揮者のM先生は『田園は何百回と指揮してい

るけど、棒を振るたびにワクワクし、感動する。本当にこんな素晴らしい音楽に浸れる仕事をしているのを、幸せだと思う』、こう言うってから練習を始めた。本当にその通りだと思う。

私も単純なのではなく、ベートーヴェンのように純粋な魂の持ち主なのだと、言ってもらいたいものである。それにしてもこの『田園』というのはシミジミよい曲だと感じる。エロイカの高揚感、運命の緊張感、第九の感動と共感とは違い、何かこう、心が暖かくなってくる。イソップ物語の『北風と太陽』の太陽のようなものである。もう『田園』について書く紙数もないので、最後に山フィルの演奏会の宣伝をしておこうと思う。このコンサートは6月18日（土）にある。場所は山形市民会館大ホール、メイン・プロはストラヴィンスキーの『春の祭典』で、熊倉一雄さんのナレーションが入る。『春の祭典』なんてアマチュアなのによくやるなー、と自分で弾きながらもまるで他人事のように思う。なんとといっても私にとっては『田園』がメインである。『田園』の演奏では、熱き心の山フィルの演奏にかなうものはないが、聴きに来れない人のことを考え、あえて次点の演奏としてアバドが指揮したウィーン・フィルの演奏を推薦しておこうと思う。ふんわりと柔らかく、優しい演奏は、ウィーン・フィルの美感を生かした名演である。

～ 編集後記 ～

先月、開所準備真っ只中、しかも一般見学会の前日という慌しさの最中に、みずばしょう見学に行ってきました。塗装の臭いと木の香りが入り混じった施設内を案内していただきましたが、想像していたよりもずっと素晴らしいものでした。月山・鳥海山を一望できる2階のサンルームは、開放感があり、景色を見ているだけで元気になっていくような気がします。できれば、赤川の花火の折には、開放していただきたいと思ったほどです。歯科診療室も2階の見晴らしの良く明るい場所にあり、これなら苦手な歯の治療もちょっとは我慢できるかも、などと思えてしまいます。

設備の中では、とりわけ、浴室は燦々と光が差し込んできて明るく広々として、たっぷりの温泉がかけ流しになっており、まさに、施設の目玉であると感じました。実は、無理を言って、お風呂に入れていただきました。ぬるめのお湯なのですが、あがってからもずっと身体がぽかぽかしていて、さすがに温泉の効果抜群と感心しました。

素晴らしい施設が完成しましたが、大事なのはソフト面の充実だと思います。職員一丸となつての努力が必要ですが、会員の皆様方のご協力なくしては成り立ちません。どうか宜しくお願い致します。

YBC ラジオ番組「朝だ！元気だ！6時半！！」に出演しました。テレビ出演の経験はあるものの、15分5日間のプログラムは、結構気の重いものだったのですが、実際に収録してみると、初めて自分の専門のことが話せたということと、録音なので失敗したら録り直せるという気楽さもあって、思ったよりもスムーズに楽しく終えました。この番組は評判も良く、これからも継続していくそうなので、出演依頼をさせていただくこともあると思います。その際には、どうか快くお引き受けいただければ、と思います。

(福原 晶子)

編集委員：伊藤末志・三原一郎・中村秀幸・石原 良・福原晶子

発行所：社団法人鶴岡地区医師会 山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136 FAX 0235- 25- 0772 E-mail tsurumed@mwnet.or.jp

URL <http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/>

印刷所：富士印刷株式会社 鶴岡市美咲町 27- 1 TEL 22- 0936(代)